

青森県透析医会だより

村上秀一

青森県透析医会は昭和53年3月に発足した。現在、会員は30施設の理事長、院長によって構成されている。

現会長には、十和田泌尿器科院長木村行雄先生があたられているが、歴代会長として元弘前大学医学部附属病院院長・財団法人鷹揚郷腎研究所理事長舟生富寿先生、財団法人双仁会厚生病院理事長石川惟愛先生、医療法人仁桂会佐々木泌尿器科病院院長佐々木桂一先生、浩和医院院長佐藤浩平先生等が歴任された。

現役員構成は表1に示す通りである。

また、青森県透析医会発足と同時に「青森人工透析研究会」を開催し、平成10年までに22回を数えた。毎年、青森県内6地区の会員が持ち回りで研究会会長として研究会の開催にあっている。

記念すべき第1回目は昭和53年3月に開催し、特別講演に東京女子医科大学教授太田和夫先生をお招きし、「欧米における腎センターの現況」と題し、ご講演して頂いた。一般演題も「透析療法で苦労した症例の検討」とテーマを設け、各施設より様々な症例が発表され、医療面、看護面などから意見交換を行った。

その後、延々と20数年間継続して開催している。年1回の定期的な研究会の開催と共に、演題数並びに参加者数も増加し、闊達なディスカッションを展開している。

平成8年には第20回記念大会として、学会長舟生富寿先生のもとに開催した。特別講演として日本透析医会会長平澤由平先生には、「透析療法にお

ける課題」、また福島県立医科大学名誉教授白岩康夫先生には、「透析治療一昔と今一」と題しご講演して頂いた。教育講演として、青森県において透析治療の指導的立場を担っておられる先生方よりご講演して頂いた(表2)。

血液透析の黎明期にご苦労なされた先生方のお話には、その時代を知らないスタッフ達からは驚きと畏敬の念がうかがわれた。また、近年患者が増加してきている糖尿病性腎症の診療や慢性腎炎について、また合併症として大きな問題となっている循環器疾患などの講話に熱心にメモをとるスタッフも多くみられた。記念大会終了後には懇親会が催され、日頃苦労している点などについて忌憚のない意見交換やスタッフ同士の親交を深めていた。

今年8月には「第26回東北腎不全研究会」が弘前大学医学部泌尿器科学教室鈴木唯司教授を会長として弘前市において開催される。一般演題はもちろんであるが、特別講演、シンポジウムなど盛り沢山の内容を予定している。当青森県透析医会も有意義な会となるように全面的に協力をしていく予定である。東北7県の会員諸兄には、是非コ・メディカルも含めた沢山のご参加をお願いしたい。

また、当医会の活動として学術集会の他にも青森県腎臓バンク、青森県臓器移植推進県民大会等と綿密に連携をとり、腎移植の普及に努めている。行政、透析患者会、民間団体と共に会員施設のスタッフの参加を得て腎移植街頭キャンペーンを毎年実施している。青森県透析医会は、透析治療に携わっている医師、看護婦を始めとした医療スタッフの透析

技術のレベルアップと共に、社会活動にも積極的に 各位並びに日本透析医会の多大なご協力の賜物と深
 取り組み、青森県の透析医療に貢献している。 謝する。

このように活発な活動が展開できるのも偏に会員

表 1 青森県透析医会役員名簿

会 長	木村 行雄	十和田泌尿器科
副会長	石川 惟愛	財団法人双仁会厚生病院
	佐々木桂一	医療法人仁桂会佐々木泌尿器科病院
理 事	舟生 富寿	財団法人鷹揚郷腎研究所
	鈴木 唯司	弘前大学医学部泌尿器科
	津久井 厚	青森県立中央病院泌尿器科
	濱田和一郎	医療法人平成会八戸平和病院
	村上 秀一	医療法人三良会村上新町病院
監 事	佐藤 浩平	浩和医院

表 2 第 20 回青森人工透析研究会記念大会

特別講演 I		
	「透析治療―昔と今―」	
		福島県立医科大学名誉教授 白岩康夫先生
特別講演 II		
	「透析療法における課題」	
		日本透析医会会長 平澤由平先生
教育講演 I		
	「慢性腎炎と治療」	
		弘前大学第 2 内科講師 山辺英彰先生
教育講演 II		
	「当院における糖尿病性腎症の診療の実態」	
		今村クリニック院長 今村憲市先生
教育講演 III		
	「透析患者にみられる不整脈」	
		医療法人三良会 村上新町病院理事長 村上秀一
教育講演 IV		
	「昭和 35 年当時の腎不全患者の治療と我々の経験」	
		財団法人双仁会 厚生病院理事長 石川惟愛先生